

桐蔭横浜大学留学生別科における日本語教育

Japanese Language Teaching in Toin University of Yokohama Center
for the Japanese Language

中丸久一

桐蔭横浜大学工学部・留学生別科

(2002年2月28日 受理)

はじめに

桐蔭横浜大学留学生別科は平成13年4月に開講した。日本の大学で教育を受けるために必要な日本語をマスターするための日本語教育機関としての位置付けにある。初年度は定員20名のところ、8名が4月に入学し、後期学期の10月には5名が入学して日本語の教育を受けている。4月に入学した8名は1年の教育期間を経て平成14年4月には桐蔭横浜大学法学部に入学することになっている。後期入学者5名は10月からの後期入学をめざして、さらに半年間の日本語教育を受けることになっている。平成14年4月には留学生別科の2期生が入学してくる。

本大学の留学生別科の特色として、日本語教育とは別に日本事情に関する授業がある。本科の大学の教員がその授業を行っている。筆者は本来物理学の教員であるので、「日本の自然」等を担当している。

留学生別科の学生は中国籍が大部分を占めている。日本語学習暦は本国で数ヶ月学んだだけのものであり、入学時の会話能力はあまりない。日本語教育において、その導入は次の順序で行われる。

1. 日本語の発音

かなと拍、長音、撥音(ん)、促音(っ)、アクセント、イントネーションの理解と学習。

2. 教室の指示ことば

始めましょう、終わりましょう、休みましょう等の教室内で教師が学生に指示することばの理解。

3. 毎日の挨拶と会話表現

おはようございます、こんにちは、こんばんは、おやすみなさい、さようなら、ありがとうございます、すみません、お願いします 等の使用

4. 数字

0, 1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10 の読み方

上記の項目を把握した上で「…です」「…ます」調で教科書を使いながら、文法、聞き取り、話し方、書き取り、読解を学んでいく。そして、一年後には、日常の会話は不自由なくこなせるようになる。本校だけではなく、日本語教師は女性が多い。そのため、男性の留学生に女性言葉に陥らない配慮も必要であり、筆者がその役割を果たしていることになる。

毎日の挨拶と会話表現

上記の項目のうち、「毎日の挨拶と会話表現」について、留学生の日常使う言葉として考えてみることにする。

毎日の挨拶ことば「おはようございます」は朝の挨拶として日常一般的に使われているが、朝であればどんなときでも「おはようございます」でよいかというと、そうはいかない場合がある。別れの挨拶はいつでも「さようなら」でよいかというと、それも、そうはいかない。留学生が日本人とまったく同じような言語活動をするのは難しいとしても、ある程度は日本人の学生と同じような言語活動をしなくては、会話はスムーズに運ばないものである。また、留学生が日本人学生の輪の中に中々入っていけないのは、語彙の貧弱性それも日本人学生が使用している若者言葉が使えないためであることが多い。そのためか、留学生は教室で教える言葉以外の言葉を教えてくれと要求してくることが多々ある。挨拶言葉はその典型である。留学生が特に関心をもっている挨拶言葉にどんなものがあるか知る必要がある。そのためには、日本人学生が使っている使用頻度の高い語彙を調査しなくてはならない。またそれだけではなく、その言葉を使うことが留学生にとってふさわしい言語活動であるかを、見極めなくてはならない。こういった一連の予見を持って留学生に語彙を教えることが、日本語教育には重要なことである。

留学生に最初に教えている挨拶言葉は「おはようございます」「こんにちは」「さようなら」である。「おはようございます」「こんにちは」は、その日初めて会ったときに交わす挨拶言葉であり、「さようなら」は別れるときの挨拶言葉である。今回は別れの挨拶言葉に限って考えてみることにする。別れの言葉が揺れ動いた状態にあるからである。出会いの挨拶言葉については、機会を改めて考えてみたいと思う。別れの挨拶言葉は「さようなら」

が一般的であり、留学生にはまず「さようなら」を教える。しかし、留学生が日本人社会で生活する場合、この「さようなら」だけでは不安と感じているようである。日本人学生と放課後別れるとき、あるいはアルバイト先での会話において、「さようなら」だけではないはずである。この言葉だけでは、若者といえども、円滑な人間関係が保たれない気がする。実際に日本人学生が用いている「さようなら」以外の別れの言葉には、どんなものがあるのだろうか。どんな言葉を用いているのか調査することにした。

調査は桐蔭学園横浜大学工学部1年生に対して行うことにした。筆者がたまたま、桐蔭横浜大学工学部の物理学実験の担当ということもあり、工学部1年生に対して授業の初めにアンケート形式で調査した。調査時期は、入学して半年経った頃である。1クラス30名程度で6クラス、6週間にわたって調査した。この時期は、1年生も大学生生活に慣れた頃で、実験という授業の形態から筆者とのコミュニケーションも比較的良好に取れている時期である。そのため、心を開けてアンケートに協力してくれると思えた。

このアンケートは留学生に対する言語活動のための基礎資料とするだけではなく、日本人大学生の言語活動も見ることができるものである。

アンケートに氏名欄はあるが無記名で行った。アンケート項目は7つに絞ってある。以下、実際に用いたアンケート用紙を示す。

アンケート用紙

アンケート

学籍番号 _____ 氏名 _____

あいさつについておたずねします。

1. 授業を終えたとき、先生が「さようなら」もしくは別の言葉を言って教室から出て行きました。あなたは、次の行動のうち、どの行動をしますか。

1. そのままだまって席を立つ 2. 軽くおじぎをする
3. 「さようなら」もしくは別の言葉を言う。
1. さようなら 2. ありがとうございます 3. 失礼しました
4. おつかれさま 5. ごくろうさま 6. その他 ()

2. 授業を終えたとき、先生が何も言わずに教室から出て行きました。あなたは、次の行動のうち、どの行動をしますか。

1. そのままだまって席を立つ 2. 軽くおじぎをする
3. 「さようなら」もしくは別の言葉を言う。
1. さようなら 2. ありがとうございます 3. 失礼しました
4. おつかれさま 5. ごくろうさま 6. その他 ()

3. 授業を受けている先生に帰り際に廊下で会った。先生は何も言わずに歩いている。あなたは次の行動のうち、どの行動をしますか。

1. だまってそのまま通りすぎる 2. 軽くおじぎをする
3. 「さようなら」もしくは別の言葉を言う。
1. さようなら 2. ありがとうございます 3. 失礼しました
4. おつかれさま 5. ごくろうさま 6. その他 ()

4. 授業を受けている先生に帰り際に廊下で会った。先生は軽く会釈をした。あなたは次の行動のうち、どの行動をしますか。

1. だまってそのまま通りすぎる 2. 軽くおじぎをする
3. 「さようなら」もしくは別の言葉を言う。
1. さようなら 2. ありがとうございます 3. 失礼しました
4. おつかれさま 5. ごくろうさま 6. その他 ()

5. 授業を受けている先生に帰り際に廊下で会った。先生は「さようなら」もしくは別の言葉を言った。あなたは次の行動のうち、どの行動をしますか。

1. だまってそのまま通りすぎる 2. 軽くおじぎをする
3. 「さようなら」もしくは別の言葉を言う。
1. さようなら 2. ありがとうございます 3. 失礼しました
4. おつかれさま 5. ごくろうさま 6. その他 ()

6. あなたは友達と別れるとき、次の行動のうち、どの行動をしますか。

1. だまってそのまま別れる 2. 軽くおじぎをする
3. 「さようなら」もしくは別の言葉を言う。
1. さようなら 2. ありがとうございます 3. 失礼しました
4. おつかれさま 5. ごくろうさま 6. その他 ()

7. あなたはアルバイトを終え帰る時の行動は、次のどれか。

1. だまってそのまま別れる 2. 軽くおじぎをする
3. 「さようなら」もしくは別の言葉を言う。
1. さようなら 2. ありがとうございます 3. 失礼しました
4. おつかれさま 5. ごくろうさま 6. その他 ()

アンケート結果

学生	先生が「さよなら」と言う		先生だまって出て行く	
	名	%	名	%
そのまま席を立つ	13	8.9	102	70.8
軽くおじぎをする	54	37	21	14.6
「さよなら」と言う	45	30.8	6	4.2
「ありがとう」と言う	9	6.2	7	4.8
「失礼しました」と言う	0	0	0	0
「お疲れさま」と言う	12	8.2	2	1.4
「ご苦労さま」と言う	1	0.7	0	0
その他のことばを言う	12	8.2	6	4.2
計	146	100	144	100

表1 教室での学生の反応

学生	先生は無言でいる		先生が会釈する		先生が挨拶する	
	名	%	名	%	名	%
黙って通りすぎる	29	19.6	4	2.7	2	1.4
軽くおじぎをする	72	48.6	79	53	17	11.7
「さよなら」と言う	26	17.6	42	28.2	105	72.4
「ありがとう」と言う	1	0.7	0	0	2	1.4
「失礼しました」と言う	0	0	0	0	2	1.4
「お疲れさま」と言う	5	3.4	9	6	9	6.2
「ご苦労さま」と言う	0	0	1	0.7	0	0
その他のことばを言う	15	10.1	14	9.4	8	5.5
計	148	100	149	100	145	100

表2 廊下での学生の反応

表1に教師(先生)が授業を終えたとき、教師が挨拶をしたかしないかによって学生がどのような反応を示すかを集計したものである。授業を終えたとき、教師が挨拶をすれば、学生の50%は何らかの挨拶をすることがわかる。また、軽くおじぎををする人を含めると、90%以上の学生は先生の言葉に対して応答があるようである。何も答えないのは、それまでそのような習慣がなかったためか、あるいは、恥ずかしさのためであろうか。

先生が何も言わないで教室から出ていってしまえば、70%の学生はそのまま席を立ってしまうことがアンケートからうかがえる。教師の方から挨拶した場合と比べると、そのまま席を立つ学生は6倍以上となり、無味乾燥な授業終了となる。教師の方から挨拶すると

学生はそれに答えようとするはこのデータから明らかである。コミュニケーションをよくするには教師の方から挨拶をすべきである。学生の高校生時代は、号令係りのような人がいて、号令のもと、挨拶をしていたと思えるのだが、大学になると、そのような人がいない。学生はどうしてよいかわからない状態になり、挨拶なしで教室を出ていくのである。教師の方から挨拶をすれば、学生は待っていたとばかりにすぐに反応する。教師の方から挨拶するのは学生に心を開かせるのに効果的な方法である。

表2は教師が廊下で学生と会ったときの学生の反応である。教師が無言でいても、50%の学生は軽くおじぎ・会釈をする。本校は学

	友達と別れる		アルバイト先での別れ	
	名	%	名	%
黙ってそのまま別れる	4	2.8	5	3.6
軽くおじぎをする	3	2.1	2	1.4
「さよなら」と言う	40	28.2	10	7.2
「ありがとう」と言う	0	0	0	0
「失礼しました」と言う	1	0.7	5	3.6
「お疲れさま」と言う	36	25.4	92	66.2
「ご苦労さま」と言う	1	0.7	4	2.9
「お先に失礼します」	0	0	18	12.9
じゃー・じゃー等	30	21.1	0	0
バイバイ等	20	14.1	0	0
その他	7	4.9	3	2.2
計	142	100	139	100

表3 友達・アルバイト先での挨拶ことば

生数が少なく、1年生であっても面識のある教師が多いからであろうが、本校の学生は人柄が良いのである。20%の学生は教師が無言であれば、だまって通りすぎる。これは学生の方に面識がないからと思える。一方、25%近くの学生は「さようなら」等の声を発している。純朴な素直な学生が多いことがうかがえる。

教員が軽く会釈をすれば、学生の50%がおじぎ・会釈をし、40%以上が挨拶言葉を発する。さらに教員が声を掛ければ90%近くの学生も声を発する。当然のことといえば当然のことであるが、声を掛けあうことによって教員と学生の信頼関係は深まってきていると思える。教員は授業時間だけが教育ではなく、授業時間以外も教育者として教育できるのである。

注意すべきことは、表2に「お疲れさま」という言葉が表れていることである。教師に廊下で会ったとき、教師の方でなく学生の方がこの言葉を発している。この「お疲れさま」に関しては後ほど詳しく述べたい。

表3に、放課後友達と別れるときと、アルバイト先で勤務先の同僚・先輩等と別れるときの挨拶言葉を示す。

表から明らかなように、友達と別れるとき、ほとんどの学生は何らかの言葉を発する。アンケートで「その他」の項目を見ると、

「ジャー」・「ジャーね」と「バイバイ」が多かったのでそれぞれ一つの項目とした。「さようなら」が最も多く30%近い学生がこの言葉を発している。次に25%の学生が「お疲れさま」を発し、「ジャー」類が20%強である。女子学生に「バイバイ」が多く15%近くが用いている。「お疲れさま」の使用は25%と多いのが印象に残っている。以上が友達と放課後別れる言葉である。

次にアルバイト先での挨拶言葉についてみてみよう。その他の項で「お先に失礼します」が多かったので一つの項目とした。この言葉は「お疲れさま」との併用が多い。両方にカウントした。それゆえ、分母は学生数ではなく、使用頻度となった。「お疲れさま」を使う学生は66%と圧倒的に多い。次に「失礼します」が続いている。

アルバイト先での「お疲れさま」の使用について

「お疲れさま」・「おつかれさん」が圧倒的に多い。アルバイトにおいては、「お疲れさま」が日常頻繁に使用されている。アルバイト先では上司、先輩、後輩に関係なく使用されているようである。この言葉は、アルバイトという仕事をする上での敬いの言葉であり、感謝の言葉として君臨している。

一つ、例を上げてみる。筆者の大学で卒業

研究をしている学生が、挨拶なしで帰ろうとするので、注意したところ、真顔で「お疲れさまです」と言う。「その言葉でよいのかね」と念を押すと、「お疲れさまでした」と丁重に言っ

て帰る。
「お疲れさま」という言葉を学生はよく使う。この言葉をいくつかの辞書でひいてみた。この言葉は奥山益郎編「あいさつ語辞典」東京堂出版(1970)¹⁾には「長旅を慰める挨拶のアナウンス」としての例しかない。新明解国語辞典・第3版三省堂(1988)²⁾には「お疲れさま」項目はなく、第5版(2000)³⁾になって、「仕事に打ち込んでいる人や仕事を終えて帰る人にかかるねぎらいの言葉。(一般に目上の人には用いない)とある。広辞苑を見ると第1版(1955)⁴⁾から第4版(1991)⁵⁾までに「お疲れさま」の項目はなく、ようやく第5版(1988)⁶⁾になって初めて「相手の労をねぎらう意の挨拶語」と記載された。学研国語大辞典(1978)⁷⁾、岩波国語辞典・第5版(1994)⁸⁾、大辞林⁹⁾にも記載がない。文化庁が毎年発行している「ことば」シリーズ¹⁰⁾にも挨拶語としての記載はない。

「お疲れさま」、「ご苦労様」は本来「ねぎらい」の言葉である³⁾。相手の労力に対して、社会的あるいは職務的に上位と思われる者が、下位と思われる人に対して発する言葉である。回覧版を持ってきた人に対して、その人が年長者であれば、「ご苦労さま」とは決して言ってはならない。年長者が年少者に「ご苦労さま」と言われればいい気持ちはしない。しかしながら、最近の回覧版の受け渡しにこの「ご苦労さま」を言われることが多いそうである。若い主婦に「ご苦労さま」と言われて中年の主婦が憤慨していたのを聞いたことがある。この「ご苦労さま」よりは「お疲れさま」の方が上下の関係は薄い。

アルバイト先で「お疲れさま」が使われるに至ったいきさつは、次のような経過であろう。この言葉の発祥は多分、深夜のコンビニエンス・ストアー(省略してコンビニ)からであろう。コンビニの深夜勤務は大概一人か

二人の若いアルバイト店員である。夜勤明け、交代時に引き継ぐ者が深夜勤務者に労力をねぎらうために、また深夜勤務者同士が互いにその労力をねぎらう気持ちで「お疲れさま」を言い出したものであろう。この場合、アルバイトであるゆえ、「お疲れさま」を言う者も言われる者も互いに親密ではない。相手を敬う気持ちで、「お疲れさま」と言ったものである。「ねぎらい」の言葉「お疲れさま」がいつかアルバイト先での挨拶言葉として代用され、今日に至ったのである。このように、挨拶言葉となり、市民権を得た「お疲れさま」はアルバイト先以外でも次第に使われ、放課後友達と別れるときに使われる言葉となったのであろう。

再び、教室での別れの言葉

教師が教室を出るとき、教師から何らかの挨拶があると、学生の挨拶言葉は「ありがとうございます」が普通である。決して「お疲れさま」とは言えないのであるが、アンケートからは8.2%の学生が「お疲れさま」を使用している。これは、前に述べたようにアルバイト用語から借りてきた言葉である。本来は使ってはいけない言葉である。その理由を考えてみる。

社会的に上位とされている上司、家長がその部屋、家を出るとき、「さようなら」とは決して言わない。「いつてくるよ」とも昔は言わなかったようである。

元来、日本社会において上司が、その責任を一手に負っているので、部下より早く帰ることは少ない。やむを得ず、早く帰るときは、「戸締りを頼みましたよ」と言って、上司の仕事・責任を部下に預ける形になるのである。有名な歌舞伎「余話情浮名の横櫛」の「源氏店」の段で、大店の番頭である多左衛門が家を出るとき、お富に言った言葉は「それでは、火の用心を頼みましたよ」である。「私がこのまま家にいて家を守らなくてはならないのだが、今は別の用事ができてしまっ

はできない。すまないが、私の代わりにこの家を守っておくれ」という気持ちが「火の用心を頼みましたよ」なのである。

学生が教師よりも早く教室を出るとき、「お先に失礼します」とは言えても「お疲れさま」と言えないのは、その教室の責任は教師の方にあり、学生の方にはないからである。ねぎらいの言葉は責任者・上位者が発することによって意味を持つ言葉なのである。学生が教室に残っている教師に向って、「お疲れさま」と言って帰るのは、どんなに丁寧に真顔で言ったとしてもおかしい。丁寧にあればあるほどのめづる。教師が学生に向って「お疲れさま」とは言える。これは、教師が責任者として君臨し、学生をいたわる立場に立っているからである。

留学生に「お疲れさま」が使える場面はあるか

留学生が「お疲れさま」が使える場面があるとすれば、それは留学生同士であろう。対等な立場にいるとき、互いに「ねぎらう」気持ちで使うには差し支えなからう。別れの挨拶としても使用可能である。しかしながら、日本人学生に対しては用いない方がよい。留学生は日本社会においては、まだ客としての存在であるからである。日本人学生と留学生が仲の良い友達になったとしてもである。日本社会・日本の学生社会においては責任は日本人学生にあり、留学生は当分の間「お客さま」に甘んじなければならないからである。

留学生に挨拶言葉として「お疲れさま」を教えてよいのか？

「お疲れさま」を別れる際の挨拶言葉として教えるのは、時期尚早である。

「お疲れさま」の誤用を考えた場合、留学生に教えるのは危険である。日本人学生以上に留学生は「お疲れさま」を乱用してくるからである。留学生は感謝の気持ちで教師に盛んに「お疲れさま」と言うてくる可能性があ

る。

日本人学生が、誤用とはいえ「お疲れさま」と言っているのは、言っている学生にはもはや「ねぎらい」の気持ちがないからである。これは日本人学生としての長い間のアルバイト期間があったからである。コンビニが24時間体制に入った1980年代からである。その後「お疲れさま」が挨拶言葉として一般化した1990年代に辞書に登場した次第である。「お疲れさま」がこのように若者の挨拶言葉として使われてきているが、若者以外にはまだまだ「ねぎらい」の言葉としての地位は残っている。留学生は若者といっても特殊である。留学生が日本の社会においてアルバイトを行っている期間は短い。それゆえ、留学生それも来日して間がない留学生にとっては、「お疲れさま」は「ねぎらい」の言葉としか理解してもらえないのである。そのような「ねぎらい」を学生が教師に向けられることはあってはならないはずである。教師は教室においては責任者であり、学生を含めて全てを守る役目にいる。「ねぎらわれる」ことはあってはならないのである。

留学生が「感謝」の気持ちで言ったとしても「お疲れさま」は「ねぎらい」の言葉としか受け取られないのである。

こういった「お疲れさま」といった言葉は、教育機関で教えるものではなく、やはり留学生自らがアルバイト等を通して吸収していくものである。そうはしても、教室で教える教師は留学生が言った言葉を常にチェックしていくので、「お疲れさま」が使えるようになるには、教師の弾圧に打ち勝ってからでないと使えない。

最後に

今回は桐蔭横浜大学留学生別科の紹介と、桐蔭横浜大学における教師と学生の挨拶言葉の実体をアンケートから紹介した。さらに、毎日の挨拶言葉のうち「さようなら」を代用する言葉と考える「お疲れさま」のについて

考察し、留学生に「お疲れさま」が挨拶言葉と教えてよいかを検討した。日本語で揺れ動いている言葉は、外国人が使用するのはい。

参考文献

- 1) 奥山益郎編「あいさつ語辞典」東京堂出版 (1970)
- 2) 山田忠雄主幹「新明解国語辞典」・第3版、三省堂 (1988)
- 3) 山田忠雄主幹「新明解国語辞典」・第5版、三省堂 (2000)
- 4) 新村出編「広辞苑」第1版、岩波書店 (1955)
- 5) 新村出編「広辞苑」第4版、岩波書店 (1991)
- 6) 新村出編「広辞苑」第5版、岩波書店 (1998)
- 7) 学研国語大辞典、学習研究社 (1978)
- 8) 西尾実編「岩波国語辞典」・第5版 (1994)
- 9) 松村明「大辞林」第1版、三省堂
- 10) 「ことば」シリーズ14「あいさつと言葉」文化庁 (1981) 他

追記

田忠魁他編著「類義語使い分け辞典」研究社によると「苦労様：他人の骨折りをねぎらう挨拶言葉。主に目上から目下へ使う。お疲れさま：「ご苦労様」と同義だが、互いに、または目下から目上へ使うという記述があった。「お疲れ様」と「新明解国語辞典」の目上の人には用いないと逆である。「お疲れ様」はまさに揺れ動いている言葉である。

注) 点は筆者による。